上地区

総合計画はだの2030プラン後期基本計画

地域が考えるまちづくり計画案



令和７年３月

上地区
地域まちづくり計画策定会議

1　現状と課題

(1)　高齢者

上地区は市内でも人口減少と高齢化が特に顕著であることに加え、傾斜地が多い地区となっており、高齢ドライバーの免許返納が推奨される中、高齢者の交通手段の確保が課題となっています。

また、いつまでも元気でいられるよう、高齢者の体力の維持や、活躍の場づくりを行うとともに、現役世代も議論に参加しやすい環境づくりが求められています。

＜策定会議の意見より＞

●高齢者の交通手段の確保

- 傾斜地が多い地区であり、住民の高齢化によって歩行での移動がますます困難になる。

●高齢者の活躍の場づくり

- 高齢者の居場所づくり、活躍の場づくりが必要である。

●多様な世代による議論の場づくり

- 現役世代も議論に参加しやすい環境づくりを目指してはどうか。

(2)　自然環境

豊かな自然環境と農業は地区の大きな特徴です。この自然環境を生かし、地域の活性化を図ることが求められています。特に、四十八瀬川は美しい景観を持つ貴重な環境資源ですが、河川敷内の雑木の伐採や土手の整備など、原風景を保つ取組みが必要です。

一方、農地では、鳥獣被害、ヤマビル被害、耕作放棄地の増加などが問題となっています。

＜策定会議の意見より＞

●現行の計画内容を継続

(3)　にぎわい

地区のにぎわいづくりのため、住民同士や、上地区を訪れる人と住民が交流できる拠点の整備が必要です。また、今後全線開通が予定されている新東名高速道路のインターチェンジを生かした、地域の活性化と安全・安心な生活環境の維持も求められています。

＜策定会議の意見より＞

●現行の計画内容を継続

1　現状と課題（続き）

(4)　地域内の交流

他地区に比べると自治会加入率は高いものの、役員等の高齢化が進んでいることと、自治会未加入者との交流が進まないことが課題となっています。

＜策定会議の意見より＞

●現行の計画内容を継続

(5)　防災

台風被害の記憶も新しい中、地震災害だけでなく、多様な災害を想定した対策が求められています。また、高齢者が多い中、適切な避難誘導と避難所の運営が求められており、誰一人災害時に孤立しないための取組みが必要です。

＜策定会議の意見より＞

●災害時に孤立しない体制
- 避難所環境の改善、停電、断水、地域の孤立に対応できる体制を構築することが必要である。

(6)　道路・交通・生活環境

さと地共生住宅開発許可制度や、空家対策の取組みを積極的に推進し、上小学校の小規模特認校制度も相まって子育て世代を呼び込むため、生活道路の整備、渋沢駅へのアクセス改善、防犯対策等による生活利便性の向上が必要です。

＜策定会議の意見より＞

●空家対策の必要性
- 移住者を呼び込み、人口減少を抑制するため、さと地共生住宅開発許可制度とともに、空家対策の積極的な推進が必要である。

●防犯対策の必要性
- 高齢世帯が増え、防犯対策に懸念がある。

2　目指すまちの姿

(1) 目指すまちの姿(将来像)

豊かな自然と交通環境が調和し、子どもから大人まで地域ぐるみの交流が盛んな魅力と活力あるまち

(2)地域づくりの基本目標

①多様な介護予防運動に取り組む笑顔があふれるまち

②豊かな自然や地域資源を利活用した新しい地域おこしを目指すまち

③里地里山の豊かな自然と共生し、安全・安心で住む喜びを感じるまち

④地域の生活にあった交通手段を維持し、便利で暮らしよいまち

＜策定会議の意見より＞

●「魅力と活力」の具体化＜将来像＞

- 抽象的な表現に加え、具体的な表現が必要である。
- 新たに子育て世代を呼び込む施策に考えが進みがちだが、地元の若者がこの地域を本当に愛し、暮らし続けたいと思える人間関係の構築や環境整備も必要である。
- 上小学校を中心に、高齢者と若者が集まり、活動できる場所にしてはどうか。
- 魅力のある上小学校を通して、外部から人を引き寄せ、地域との交流の橋渡しをするような、上小学校を中心としたまちづくりが上地区に合っているのではないか。

●防災・防犯への意識＜地域づくりの基本目標＞

- 防災備蓄の充実や、避難所への経路を踏まえた広域的な連携も必要である。
- 防犯対策としての各家庭への緊急通報システムの導入が必要である。

3　地域版リーディングプロジェクト

【プロジェクト名】
上地区イノベーション

【プロジェクトの背景・ 目的】

●上地区の経営資源は自然環境（農業）と人だが、厳しい現状にある
- 上地区の最も重要な経営資源は豊かな自然環境、農業と地区に暮らす人々である。
- しかし、人口減少や高齢化により、耕作放棄地など、荒廃地が増加している。
- また、自治会等の役員も高齢化している。

●経営資源を生かした、農園ハイクやいなか暮らしふるさと塾（いなか暮らし体験ツアー）の取組みが実施されている
- 自然環境と農業、農業従事者という経営資源を生かした農園ハイクやいなか暮らしふるさと塾が実施されており、年々参加者が増加している。市外から訪れる参加者や、リピーターも多い。

●農園ハイクやいなか暮らしふるさと塾の取組みを次世代に引き継ぐための工夫が求められている
- 地区の発展と活性化を担う農園ハイクやいなか暮らしふるさと塾の取組みを、継続していくためには、地区全体でそうした取組みに関わり、参加者と地域住民との触れ合いを図ることや、次の担い手を育てることが重要である。
- また、実施側に負担感が生じないことも必要である。
- 参加者にとっては、気軽に参加できること、内容に引きつけられるもの（目玉）があることが重要である。

【プロジェクトの内容】

●まちづくり委員会として農園ハイク及びいなか暮らしふるさと塾（いなか暮らし体験ツアー）を支援

・地域全体で農園ハイクといなか暮らしふるさと塾に取り組む体制を作るため、まちづくり委員会として支援する。
・農園ハイクといなか暮らしふるさと塾の連携を目指し、より充実した内容とする。

●かみ未来会議を実施（上小学校の小規模特認校を生かし、PTAと連携するなど、子育て世代の移住を促進）

・現役世代を中心としてかみ未来会議を実施し、上地区活性化につながる継続的な取組みを検討する。
・上小学校の小規模特認校を生かし、ＰＴＡと連携することで、現役世代を取り込む。

●上地区で活動する人たちと一体となった地域活性化

・地域の外から訪れて様々な活動を行っている方々と、地域住民との交流を通じて、上地区活性化のために出来る取組みを共に模索する。

【推進体制】

●まちづくり委員会による推進

・まちづくり事業特別交付金の申請
・協力農家の拡大
・協力体制の強化（関係団体に依頼）
・農園ハイクといなか暮らし塾の連携を後押し

＜策定会議の意見より＞

●人材の発掘・確保

- 「いなか暮らしふるさと塾」を一層盛り上げていくため、実施方法を工夫し、「農園ハイク」とともに推進したい。
- 「かみ未来会議」について、後期地域まちづくり計画では、より一層、推し進めていく必要がある。さらに、継続的な取組みとしていきたい。
- 上地区には地域内外のネットワークを持つ個人・団体がいることから、そうした個人・団体の活動と連携し、その人的資源を地域の活性化に生かせないか検討が必要である。

4　主な取組み・すすめる活動（地域主体の取組み・地域と行政との協働の取組み）

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
① **多様な介護予防運動に取り組む笑顔があふれるまち**	**【高齢者】**	
	●地域で行う高齢者の生きがいづくり • 地元のデイサービスの実施、ひとり暮らし高齢者の見守り活動 • 元気な高齢者ボランティア人材の確保 • 健康づくり運動の推進 • 老人憩いの家「かわじ荘」の更なる活用（未病・フレイル予防による健康寿命延伸、老若男女問わず交流の場を創出）	 地域全体 地域全体 地域全体 自治会・行政
	●高齢者の車対策 • 単位自治会での送迎 • 菖蒲荘、みくるべ病院との連携 • 新たな交通手段の確保（民間施設の送迎バスなど）	 自治会 民間事業者 自治会・民間事業者
	●地域での見守り • 認知症、独居老人の見守り • 自治会と民生児童委員との情報共有 • 上地区全体での交流促進（地域ぐるみの交流による助けあい）	 地域全体 自治会・民生児童委員 地域全体

＜策定会議の意見より＞

●「かわじ荘」の更なる活用

• 老人憩いの家「かわじ荘」では、行政と連携して、未病・ フレイル予防に取り組んでいる。取組みを通して、高齢者の参加を地域で促進し、笑顔あふれるまちにしていきたい。

●新たな交通手段の確保

• 高齢者の買物・通院のための新たな交通手段として、 菖蒲荘・クレイン乗馬クラブ・太平洋カントリー等の送迎バスを活用できないか、管理者との調整を進めていきたい。

●社会福祉協議会独立の検討

• 民生委員・児童委員の確保や資金面の課題などを考えると、西地区に含まれている方が望ましいため、項目を削除した方がよい。

●地区全体での交流

• 人口が少ない上地区だからこそ、住民全員が顔見知り・知り合いになることを目指してはどうか。「困った時はお互い様」という、地域全体での助けあいにつながるのではないか。

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
② **豊かな自然や地域資源を利活用した新しい地域おこしを目指すまち**	**【自然環境】**	
	●里地里山の保全 • 照葉樹を中心とした植樹の実施 • 休耕地等に花を植える　など	地域全体
	●自然環境を利活用した地域おこし • 上地区内ハイキングコース（スケッチをしながら楽しむ「スケッチライン」等）の整備 • ハイキングマップ（さとあるき手帳）の作成 • 上地区季節ごよみカレンダーの作成 • 住民参加による自然環境調査 • 生き物、県民の森の有効活用 • 薪ストーブメーカーのショールーム誘致	地域全体 まちづくり委員会 まちづくり委員会 地域全体 地域全体 自治会・民間事業者
	●農業振興、耕作放棄地の活用 • ニンニクの生産振興、地域での取扱店設置 • 耕作放棄地の活用（レンタル農園、朝市、グランドゴルフ場、農業体験） • 耕作放棄地への花植え（寄のロウバイの里を参考に） • 行政と連携したヤマビル対策の検討 • 農福連携による農村振興 • 地産地消商品の開発・周知	農業従事者・ＪＡ・行政・民間事業者

＜策定会議の意見より＞

●自然環境を利活用した地域の活性化に係る取組みの展開

- 上地区のハイキングマップ・掲示板を作成し、上地区のＰＲにつなげていきたい。
- 上地区の豊かな自然環境に愛着を持ってもらうため、例えば、大人でも子どもでもできる「上地区季節ごよみカレンダー」作りを進めてはどうか。
- 移住促進のモデルハウス内に、薪ストーブメーカーのショールームを誘致してはどうか。また、里山の豊富な薪を供給する仕組みを作ることはどうか。

●耕作放棄地活用に係る取組みの展開

- 耕作放棄地の活用について、農業体験の実施も推進していきたい。

●農福連携の取組み

- 耕作放棄地の再生を図るため、農福連携型の事業について、民間企業や農業協同組合などが実施主体・事業主体となり実施してはどうか。

●地産地消商品

- 地場産のもの（例：落花生）を商品化し、周知を図ることで、上地区の魅力をＰＲしていきたい。行政や農協のような団体の協力が得られれば、「秦野名産」の一層のすそ野の広がりが期待できるのではないか。

4　主な取組み・すすめる活動（地域主体の取組み・地域と行政との協働の取組み）（続き）

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
② **豊かな自然や地域資源を利活用した新しい地域おこしを目指すまち（つづき）**	**【にぎわい】**	
	●地域拠点の整備 • 公民館、ＪＡ支所、自治会館、児童館、旧上幼稚園園舎の有効活用（ハイキング時の休憩所等） • 公民館を地域の中核として、自治会連合会やまちづくり委員会の事務局、アドバイザー化	行政・JA・自治会連合会・まちづくり委員会
	●空家対策 • 地域での窓口を作り、スピード感があるマッチング • 組長等が空家の情報収集 • 自治会館より身近な拠点として空家を活用 • 行政との連携による空家問題の解消	自治会 自治会 自治会 行政・地域全体
	●「農園ハイク」と「いなか暮らしツアー」の連携 • お遍路をイメージした協力家庭での休憩、お茶やトイレ等の提供 • 宿泊体験型事業の検討（農泊、旧上幼稚園園舎に宿泊）	行政・地域全体 行政・農泊実施者
	●新東名高速道路の新秦野インターチェンジを生かした地域おこし	まちづくり委員会等

＜策定会議の意見より＞

●官民が連携した空家対策

• 今後、対策が進まない空家が増加することが懸念されるが、地域としての対策には限りがあるため、地域住民が空家に関する情報を収集し、行政に提供するなど、空家解消に向けて、行政と連携した検討を進める必要がある。

●新東名高速道路のインターチェンジを活用

• 新東名高速道路の新秦野インターチェンジを生かした項目が必要ではないか。

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
③ **里地里山の豊かな自然と共生し、安全・安心で住む喜びを感じるまち**	**【地域内の交流】**	
	●子育て支援の仕組みづくり • 地元での児童受入れなどの仕組みづくり • 食による地域内の交流	地域全体
	●地域内及び他地域との協力体制の拡充 • 世代間交流の促進、湯ノ沢や寄地区などとの連携強化など	自治会
	●西地区自治会との連携 • イベントの相互協力等	両地区自治会
	●まちづくりの担い手の育成 • 各地域団体ＯＢによる現役世代のサポート、顧問化 • 女性の活躍できる場づくり • かみ未来会議の実施（現役世代対象、講座や先進地視察） • 自治会加入の促進	各地域団体 地域全体 自治会・行政 自治会
	●各種事業の連携 • 公民館の事業、地域の事業、小学校の事業の一体化（運営の効率化、事業の活性化） • 小規模特認校（上小学校）の活用	地域全体
	●イベントを通じた地域交流の促進 • 富士登山、かかしまつり、納涼祭などの実施	自治会・地域団体

＜策定会議の意見より＞

●「食」を生かした子育て支援

- 地産地消を掲げ、食への感謝を子育て世代に繋げていくとともに、親子食堂を利用する子どもへの調理実習も視野に入れていきたい。「食」という、すべての人につながるものをテーマとして、地域を活性化していけると考える。
- 上小学校から地元の人に給食を食べに来てほしいという話が来たこともある。子どもに限らず、幅広い世代での交流を図った方がよい。

●まちづくりの担い手に係る取組み

- 「かみ未来会議」実施への支援をすべき。
- 「自治会加入の促進」について、「各組長が最低１家庭に声掛け」は実際には行われていないので、項目を削除した方がよい。

●イベントを通じた地域交流の促進

- 富士登山、かかしまつり、納涼祭など、様々なイベントにより、地域住民等の交流を更に促進していきたい。

4　主な取組み・すすめる活動（地域主体の取組み・地域と行政との協働の取組み）（続き）

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
③ **里地里山の豊かな自然と共生し、住む喜びを感じるまち（つづき）**	**【防災・防犯】**	
	●防犯（防犯カメラ、防犯灯の設置等）・交通対策の強化 • 地域パトロールの推進など	地域全体
	●防災対策 • 防災倉庫への「救命ボックス」の設置 • 防災装備の自主点検 • 消防団、消防団ＯＢとの協働	 自治会 自治会 消防団等
	●高齢者の避難 • 身近な一時避難場所（いっとき避難所＝頑丈な建物）の確保、確認	自治会・行政

＜策定会議の意見より＞

●「自治会の組の細分化」
- 自治会の組み分けの細分化は、現状では行っていない。組長の負担が大きくなるため、項目を削除した方がよい。

●消防団との協働
- 消防団車庫待機室の活用のみならず、消防団員や消防団ＯＢとの協働として、機材の購入など、資金面の支援も含めて連携していきたい。

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
④ **地域の生活にあった交通手段を維持し、便利で暮らしよいまち**	**【道路・交通】**	
	●交通安全対策 • 交通安全指導員と自治会の交通対策部の連携 • 市道の利用状況を分析し、行政に要望	交通安全指導員・自治会 自治会
	●公共交通の維持 • かみちゃん号の利用促進（自ら乗って残す、自治会総会で収支状況を周知徹底、回数券をイベントの参加賞や景品として交付、通学に利用する家庭への支援など） • 地域企業にかみちゃん号への協賛依頼	自治会・運行事業者・行政 自治会・地域企業
	【生活環境】	
	●住民意識の向上、地域コミュニティの活性化 • 向こう3軒両隣意識の醸成など	自治会・地区住民
	●生活利便性の向上 • 地域の自主事業として、農家と連携し直売を実施 • 地区の農産物の直売マップの作成 • 便利で魅力的な店舗等の開設、誘致の促進	地域全体・民間事業者

＜策定会議の意見より＞

●公共交通の維持に向けた選択肢の拡大
- 「かみちゃん号」利用促進策として、回数券をイベント参加賞や景品として提供したり、通学に利用する家庭への補助などを行ってはどうか。
- 「かみちゃん号の利用促進」について、「地区別/曜日別でのノーカーデーの実施」は、実際には行われていないため、項目を削除した方がよい。

●魅力的な店舗の誘致
- 上地区で買い物ができ、高齢者にも子どものいる家庭にも優しい、便利だけでなくお洒落で魅力的な愛されるお店を誘致・開設したい。

5　上地区地域まちづくり計画策定会議のあらまし

(1)　地域まちづくり計画策定会議委員（選出分野）

自治会連合会	上青少年育成部会	交通安全協会（母の会）
民生委員	交通安全対策委員	上小ＰＴＡ
上自由学校	地域学校活動コーディネーター	大学生

委員数１８名

(2)　主な検討経過

回数	日程・会場	内容
第１回	令和6年10月16日（水） 19：00～ 上公民館　多目的ホール	・地域まちづくり計画の目的や策定の進め方等の確認 ・策定に当たっての基本情報の共有 ・前期地域まちづくり計画に対する意見（課題カードの作成）
第２回	令和6年11月20日（水） 19：00～ 上公民館　多目的ホール	・課題カードの取りまとめ結果を踏まえた意見交換 ・地域として実施していく取組みについての検討
第３回	令和6年12月18日（水） 19：00～ 上公民館　多目的ホール	・原案を踏まえた意見交換 ・地域が考えるまちづくり計画案の決定



